

# アクサ・ユネスコ 教育プログラム

## 「減災」目指す学校に助成金

防災・減災教育の開発・改善を目指す  
学校に助成金を支給する「アクサ・ユネ  
スコ協会減災教育プログラム」は本年度  
で6年目を迎え、2月22日には、参加校  
の報告などにより、広く防災・減災につ  
いて情報提供するフォーラムが開かれ  
た。本年度は35校がそれぞれ10万円の助  
成金を得て活動してきた。



減災教育プログラム参加校の教員らが集まり、成果・課題など  
について話し合ったグループセッション＝2月22日

### フォーラムで実践発表

フォーラムでは、初年度  
に参加した横浜市立横浜緑  
台高校が災害発生時の地域  
間相互支援体制の構築を目  
指した活動などを発表した。  
同高校は総合学科・定時  
制・3部制という特色があ  
る。生徒の自己肯定感の向  
上が大きな課題の一つで、  
全国4カ所での実習・就業  
体験を経て年度末には、商  
品販売などを行う「大感謝  
祭」を開いた。生徒の問題  
発見力、社会適応力を高め  
ようとする狙いがある。

一連の活動を通して、地  
域社会との連携を深めて災  
害に備えるとともに、生徒  
が実習・就業体験で訪れた  
地域との間で、相互支援体  
制の構築を目指している  
という。  
本年度の参加校では、埼  
玉県新座市立片山小学校が  
プログラムミング教育と融合  
させて実践を重ねた。1、  
2年生はコンピュータを使  
わない「アンプラグド」と  
呼ばれる手法で、災害発生  
時の初動体制を考えるなど  
した。

## 地域間の支援体制を構築

### 災害時の初動対応 プログラミング生かす

分県佐伯市立彦陽中学校  
は、生徒が津波に備えてよ  
り安全な避難場所を検討  
し、開設が間もなく実現す  
ることを報告した。

同中学校は佐伯湾に近  
く、川をさかのほって津波  
が押し寄せる可能性があ  
る。2017(平成29)年  
度に、県から防災教育校の  
指定を受け、生徒が研究を  
重ねた。現在の避難場所  
は橋を渡ったり、鉄道を横  
断したりしなければならな  
いことから、学校の裏山に  
別の避難場所を設ける必要  
があるとの提言をまとめ、  
市の防災担当部署に提出し  
た。

研究指定が終わるとも  
に実践が終わることを避け  
ようと、「減災プログラム」  
に応募。実現を目指した。  
生徒は募金活動により、建  
設費用確保のためにも動い  
た。今月半ばには完成する  
予定だという。

SDGsとの  
関係など解説

宮城県気仙沼市で小学校

## 生徒提言で避難場所を新設

の教頭などを務めてきた経  
験を持ち、このプログラム  
への参加校に助言するな  
どしてきた及川幸彦さん  
(東京大学大学院教育学研  
究科附属海洋教育センター  
主幹研究員)は、各校の  
発表に先立ってESD(持  
続可能な開発のための教  
育)やSDGs(持続可能  
な開発目標)と新学習指導  
要領の関係などについて解  
説した。

SDGsのうち、「貧困  
をなくそう」「住み続けら  
れるまちづくりを」「気候  
変動に具体的な対策を」な  
どが減災と関わり、新  
学習指導要領の総則では、  
「豊かな創造性を備え持続  
可能な社会の創り手となる  
ことが期待される」として  
いることを紹介した。

このプログラムは例年4  
月から5月にかけて参加校  
を募る。採用が決まると7  
月ごろに助成金を支給す  
る。9月の教員研修会と2  
月のフォーラムに参加する  
ことが条件となる。